

第百二十一回楽々俳句会(ちば)

令和七年七月十日(木) 晴

集合 千葉市民活動支援センター9階 十時集合

兼題 入道雲

入道雲ぐんぐんと立つ地平線

雲の峰髭の親爺に迎へられ

ぐんぐんと追いかけて来る入道雲

4坂道を抜けて峠や余花の宿

2 入道雲一步一步に老い重ね

1 大の里能登の光や雲の峰

3 野仏の手に一輪の花菖蒲

2 枇杷たわわ八犬伝の海きさら

2 突入の機体揺さぶる積乱雲

2 浅間山どつかり座る雲の峰

2 入道雲ボデイビルダー鏡見て

1 雲の峰燧ヶ岳を控へけり

麻酔より覚めし青葉のみずみずしさ

西福寺浪の伊八の夏座敷

1 3 入道雲広がる旅のフリーパス

1 2 サーファーを飲み込む波と峰雲と

峰雲やサーファー飲み込む波頭

1 2 沖繩の入道雲の怒り貌

1 狭迫るさんざめく空入道雲

1 大夕焼からむ灯台浪しぶき

1 房の野へ詫びの虹置く積乱雲 季語重ね

房総の野に置きたる虹の橋

4 勇み立つ潮の目引き込む雲の峰

2 雲の峰胸突き八丁九合目

2 漢のごとき雲たちて夏盛り

2 日の丸機入道雲に見え隠れ

旅客機の・・・

日の丸機は戦争を思い出す

1 峰雲へ大観覧車出発す

1 ぐんぐんと伸びる伸びるや雲の峰

1 蓮の花湖面の光走り出す

武彦 園子 育子

採り忘れ優等生の瓜かじる

採り忘れ畑で試食の太き瓜

猛暑で愛犬相手チョイ飲みす

冷房や愛犬相手チョイ飲みす

雲よ雲どこへ放浪果てしなく

夏雲や高く高くへ盛り上がる

睡蓮の葉に風そよぎ茎控へけり

睡蓮へそよそよ風や波に揺る

良きことの兆しあふるる入道雲

入道雲今日は良き事兆しあり

置き忘れ見入るピンクオーガハス

咲き残るピンクに見入る大賀蓮

アガパンサス水にひらきて朝の風

アガパンサスは南アフリカ原産5月下旬から8月上旬

に開花。和名ムラサキクンシラン(紫君子蘭)

庭手入れ腰の蚊遣り火ゆらゆらと

蚊遣火の腰にゆらゆら庭手入れ

小公園園児駆け寄る草笛の音

草笛の音に園児等の駆け寄りぬ

参加者

成子・園子・育子・恵美子・宣子・静代・弘子・豊隆・粹歩・武彦・久登

投句

・信雄 欠席 今日子・洋子・利太郎・ミチ子

次回予定

八月十四日(木)

九月十一日(木)

十月九日(木)

十時活動センター

十時活動センター

十時活動センター

兼題「金魚」

兼題「案山子」

兼題「団栗」